



## 韓国青年訪日団（第2～3団）招へい事業の記録

### 1. プログラム概要

【目的・概要】日韓関係の改善を基盤とした訪日プログラムの一環として、在大韓民国日本国大使館にて選抜された高校生等64名が、7月22日～30日まで、今後の日韓間の相互理解と信頼関係増進の基盤強化に寄与することを主目的として訪日しました。一行はテーマ「東日本大震災復興状況視察～宮城県を中心に」の下、東京都、宮城県を訪問し、講義聴講、学校訪問、ホームステイ、視察等を通じて、日本に対する理解を深めるとともに、プログラム中の学びや訪問地の魅力についてSNS等で発信しました。

【参加者】韓国の高校生等 合計64名

【訪問地】東京都、宮城県 合計64名

#### 【日程】

##### ■ プレプログラム（オンライン事前学習事）：

7月15日（火曜日）オリエンテーション（プログラム説明）、参加者による対外発信

##### ■ 招へいプログラム：

7月22日（火） 成田国際空港から入国、来日時オリエンテーション

7月23日（水） 【視察】そなエリア（防災体験学習施設）

【表敬・講義】外務省「最近の日韓関係について」

【視察】李秀賢氏追悼・顕彰碑含む新大久保フィールドワーク

7月24日（木） 宮城県へ移動

【講義】宮城県「震災からの復興状況と震災の伝承」

【表敬】駐仙台大韓民国総領事館

7月25日（金） 【学校訪問・交流】宮城県塩釜高等学校

7月26日（土） 【視察】みやぎ東日本大震災津波伝承館、石巻南浜津波復興祈念公園、MEET 門脇、震災遺構 門脇小学校（すべて解説員と共に）、ホームステイ対面式

7月27日（日） 終日ホームステイ

7月28日（月） ホームステイ解散式

【視察】南三陸町まなびクエスト（フィールドワーク）

【視察】海の復興と保全・持続可能な活用について

7月29日（火） 【視察】震災遺構 女川旧交番、アクションプラン・感想発表会

7月30日（水） 東京都へ移動、羽田国際空港から出国

## 2. 記録写真



7月23日【表敬・講義】外務省「最近の日韓関係について」



7月24日【講義】宮城県「震災からの復興状況と震災の伝承」



7月25日【学校訪問・交流】宮城県塩釜高等学校



7月26日【視察】石巻南浜津波復興祈念公園



7月26日【視察】震災遺構 門脇小学校



7月28日【交流】ホームステイ解散式の様子



7月28日【視察】海の復興と保全・持続可能な活用について



7月29日【視察】震災遺構 女川旧交番

### 3. 参加者の感想（抜粋）

#### ◆ 韓国 高校生

震災遺構である門脇小学校やみやぎ東日本大震災津波伝承館、石巻南浜津波復興祈念公園を訪れたことが最も印象深く残りました。それは津波が襲った被災現場を直接自分の目で見て、大きな衝撃を受けたためです。またこの当時、門脇小学校の死者が7人しか出なかった点についても驚きました。このような大きな災害で、死者数が少ないという事がとても不思議でしたが、日本が行っている災害対策がとても考えられたものであることを知り、私自身も災害に対する警戒心をより強く持たなければならないと思いました。

#### ◆ 韓国 高校生

宮城県では、東日本大震災に関する講義を詳しく聴講しました。宮城県の住民は、実際に災害を経験したからこそ自然災害に対する危機感が強く、ほとんどの人が食料を備蓄し、訓練にも真剣に取り組んでいるとの話を聞き、とても驚きました。韓国でも火災や地震の訓練があるものの、あまり警戒心を持たれず、運動場を散歩するような感覚で行われることがあります。日本では頻繁に経験するからこそ、皆が真剣に取り組んでいるという話を聞き、次の訓練では実戦さながらに取り組むべきだと感じました。

#### ◆ 韓国 高校生

東日本大震災と津波で大きな被害を受けた地域を直接訪問し、自然災害が残した傷跡と、それに立ち向かってきた人々の胸に迫るような物語を体験できた、非常に意味のある時間でした。特に、旧門脇小学校と東日本大震災津波伝承館では、被災当時の惨状と犠牲者の苦痛を目の当たりにし、自然の威力の前に人間がどれだけ無力であるかを痛感しました。しかし、それと同時に、この地域の住民が示した回復力と希望のメッセージが深い印象を残しました。

#### ◆ 韓国 高校生

今回のプログラムでは、現場を直接自分の目で見て、そこにいらっしゃる方々と対話をしながら学ぶことができとてもよかったです。特に学校訪問時にできた友達やホストファミリーの皆さんがとても親切にくださり、日本語で会話も続けることができたため、お互いについてたくさん知ることができました。本やニュースだけで接していた日本の復興現場や地域社会の努力を、実際に目で見てお話を聞くことができ、出会った皆さんの真心を感じることができました。この経験は、私にとって忘れられない思い出となりました。

### 4. 受入れ側の感想（抜粋）

#### ◆ 宮城県復興・危機管理部 復興支援・伝承課 関係者

この度は、韓国青年訪日団（第2～3団）の皆さまに「宮城県の復興状況と震災の伝承」について講話の機会を賜り、誠にありがとうございました。日頃の備えについてなど、聞きながら真剣に聞いている姿が印象的でした。本講話をきっかけに、一人ひとりが防災の大切さや命の尊さについて考え、日頃から自分にできることを実践していただければ嬉しく思います。

◆ 宮城県教育旅行等コーディネート支援センター関係者

この度は本県にお越しいただき、心より感謝申し上げます。学生の皆さんから「一生忘れられない経験となった」「もう韓国に帰りたくない」などといった感想を聞き、とても嬉しかったです。知識不足・経験不足もあり、韓国の方への対応に至らぬ点もあったかと思いますが、今後は改善してまたお迎えできればと思います。

◆ 宮城県塩釜高等学校関係者

韓国青年訪日団が本校へ来校し、両国にとって素晴らしい交流が実現できたことに感謝しています。このような海外の高校生との触れあいの機会はあまりないため、これほど大規模な交流が成功できたことは、私たちに取らしましても大きな喜びとなりました。今後も相互の交流を通じて、地球環境や持続可能な社会のあり方について、相互の考えを対話しながら真剣に考えていくことがとても大切だと感じております。今回の出会いを大切に、今後も何らかの形で繋がっていきたいと願っております。

◆ 宮城県塩釜高等学校関係者（学生）

日本と韓国では互いの国で摩擦があったりしますが、その中でもこうして日本に来ていただいた皆さんにはとても感謝しています。実際に韓国の方と話をしたことで深く考えさせられました。話をして心を通わせてみないと分からないことはたくさんあり、言葉を交わすことで知ることがあるんだと改めて分かりました。今回の交流は私の一生の宝物となり、日本と韓国をつなぐ大切な一歩になりました。

◆ 加美町ホームステイ受け入れ家庭

受け入れた子供たちは皆素直で、意思表示もしっかりできる、とても良い子たちでした。食器を下げるなどお手伝いもしてくれて、我が家の小学生ともすぐに打ち解け、賑やかで笑い声の絶えない時間を過ごしました。心から交流してくれたおかげで、私たち家族にとっても、子どもにとっても大変貴重な経験となりました。外国の子どもたちと、こんなにも身近に親しみを感じられたことには、本当に驚きました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

<p>일본 위무성을 방문하여 최근의 한일관계에 대한 강의를 들은 경험은 매우 뜻깊고 인상 깊었습니다. 외교관님은 과거서, 경제 협력, 안보 협력 등 다양한 측면에서 현재의 한일관계를 직접적으로 분석해주셨고 직면한 현실적 과제뿐만 아니라 협력의 가능성에 대해서도 균형 잡힌 시각으로 설명해주셨습니다.</p> <p>특히 양국 정부 간의 대화 노력, 청년 교류 확대, 문화적 상호이해 증진 등 구체적인 협력 방안을 들으며 외교가 단 순히 갈등을 조율하는 것을 넘어 신뢰 회복과 공동 번영을 위한 적극적인 시도 있음을 느낄 수 있었습니다.</p> <p>또한 강의 중에는 일본 측이 기대하는 역할과, 마라지항역 관계 구축을 위한 전략도 소개되어, 외교라는 분야가 얼마나 섬세하고 다층적인지를 체감하게 되는 계기가 되었습니다.</p>	<p>♡ 8    👤    📌    🔄    📌</p> <p>님 의 여러 명이 좋아합니다</p> <p>3일차엔 미야기현을 방문해서 2011년 동일본대지진 이후의 북핵 상황과 진재의 전승에 대한 설명을 들었습니다. 지진 발생 14년이 지난 지금도 그 기억은 여전히 생생하고, 지역사회가 어떻게 아픔을 딛고 일어섰는지, 또 그 경험을 어떻게 다음 세대에게 전달하고 있는지에 대한 이야기를 들을 수 있었습니다. 또한 주선데이 대한민국 총영사관의 역할에 대해 배울 수 있었습니다.</p>





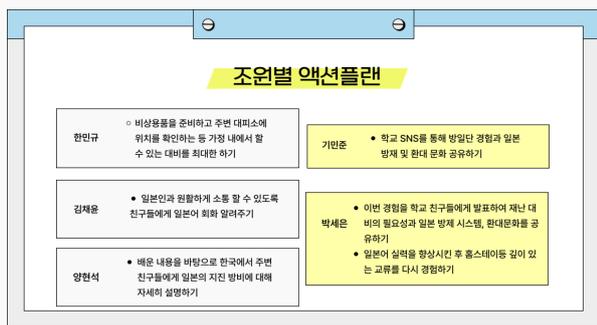
저희가 드린 작은 선물들을 하나하나 보시면서 감사하고 해주시고 다같이 과자도 먹어보고 차도 마셔보고 했다 그리고 어머니 아버지가 지진 당시에 미야기에 대한 이야기들 추가로 경험담과 함께 해주셨는데 들으니 너무 속상해지고 마음이 안좋아지더라.. 다들 얼마나 힘들었을지 가늠도 안간다  
 지금 무사히 잘 계시니 다행일 따름이지만 당시에 놓가셨던 많은 분들이 다 집이 없어지거나 하셔서 힘들었다고 하셨다 감히 어떻게 할 수 있는 이야기가 아니었다



2025年7月26日 (NAVER blog)  
 私たちが贈ったプレゼントを一つひとつ開けながらありがとうございますと言ってくれ、お菓子を食べたりお茶を飲んだりした。そしてお父さん・お母さんが地震当時の宮城県に関する話を経験談も含め話してくれたのだが、とても切なく心が苦しくなった。皆さんどれだけ辛かったのか、見当もつかない。今無事に過ごされていることにほっとする一方で、当時の農家の皆さんは家がなくなったりして辛い思いをしたことも聞いた。軽々しく話せることではなかった。

2025年9月19日(河北新報社 河北ウィークリーせんだいジュニア)  
 韓国から来た高校生 60人は、在大韓民国日本国大使館が選抜した「韓国青年訪日団」のメンバー。東日本大震災の復興状況などの視察に、宮城県をはじめ国内各地を訪れた。(省略) 根岸校長は「国際交流は相互信頼、他者理解の貴重な機会。今回のような実体験は、オンラインや書物とはまた違った大きな学びです。異文化に触れたことで、相手の立場で考えるようになり、相手も自分自身も尊重できるようになれば」と期待する。

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表 (概要または抜粋を記載する)



**방일단 참여 소감**  
 들을만대시간에는 이번엔 학습주제에 흥미심이 생겼습니다. 백옥이라는 그다 오래되지 않은 시골집은 일본이 어떻게 국력해왔고 이를 견뎌왔는지 알 수 있었습니다.  
 신라 이후 송골, 큰3200만 남은 케노노야미 초등학교 외곽을 바라보았을 때 저는 권우역 5.19 구도청 건물과 닮았다고 느꼈습니다. 낯익은 공간이 주는 정서적인 차이를 깨닫게 되었습니다.  
 누군가는 피난을 위해 일찍이 이 곳에서 저는 그들의 발소리를 들었습니다. 누군가는 시정하는 시간을 들였을 이 곳에서 그들의 공기를 들었습니다. 이런 시간을 통해 저는 지킬 수 없는 마음의 상처와 그 상처가 남기기 전 지역에 대해 관심을 갖게 되었습니다.

**액션플랜**

<p>#1 우리나라 재해 정보 탐색</p> <p>최근 10년 재해 피해 사례 조사, 피해규모, 문제점을 탐색        → 자연재해 발생시 한국의 취약점 도출</p>	<p>#2 1번을 기반으로 교육 프로그램 만들기</p> <p>중등물 대상으로 취약점 보완을 위한 교육 프로그램 설계        ex) 비상배낭 꾸미기 실습, 지역사회 대피도 만들기</p>	<p>#3 SNS 포스트</p> <p>방일단으로서 하루하루 느낀 점을 인스타그램에 업로드 했습니다.</p>
---	---	---

【成果の発表】  
 ・訪日前は東日本大震災について新聞等を見て知っている程度でした。今回実際に訪れ被災地域の復興状況を直接見ることができ、大震災が残した傷跡を現実的に体感することができました。写真や映像からイメージするだけでは伝わらない、日

【成果の発表】  
 ・視察や語り部のお話を通して、生き残ることは必ずしも「幸運」ではなく、深い苦しみや責任をとらなければならないのだと知りました。「生きるとは何か」を問い続け、共にある人を愛し、瞬間を大切に、その思いを伝えることの大切さを強く感じま

本社会の体系的な災害対応方法や記録を残して後世に伝えようとする努力、防災教育の重要性について学びました。

・被災地視察を通し生存者の方々の話を直接聞きながら「災害」という言葉が他人事ではないことに気づくことができました。この経験から災害はいつでも私たちの周辺でも起こりうる現実だということを実感し、警戒心を強く持つようになりました。

・東日本大地震が残した被害の深刻さと実態を現地で直接見聞きし、復興するために今でも努力されている方々の献身性とその情熱を肌で感じることができました。プログラムを通じて自然災害の恐ろしさと共に、立ち上がろうとする人々の強靱な意志と共同体精神に対し深く感嘆しました。

#### 【アクション・プラン】

・災害時の避難の重要性や、日本の防災システムについて授業時間に発表します。

・有事の際の自宅避難経路を確認し、被災時に持ち出せる防災リュックを準備するなど対策を整えその取り組みについてたくさんの人に伝えます。

・訪日団で得た経験を動画で表現し友達に紹介します。

・防災について一目でわかるようなポスターやカードニュース、災害時におけるチェック表を作成し配布します。

・今回学んだことをベースに、日本の地震対策方法について説明します。

・放送委員として東日本大震災や津波に関するコンテンツを作成し、広く伝えます。

した。

・「宮城東日本大震災津波伝承館」と「門ノ脇小学校」を訪れ、津波の高さを表した展示と建物、実際の被害写真を見て自然災害の脅威を生々しく感じました。また、「関連死」という初めて聞く言葉に、災害の被害は目に見えるものだけではないということを学びました。

・特に印象深かった点は、東日本大震災に対する日本人の態度でした。人はよく辛い記憶を忘れようとするのですが、日本はむしろその痛みを後世に伝え、二度と同じ悲劇が繰り返されないように努力していました。また、幼い頃から避難訓練を実施するという話を聞き、このような努力の積み重ねがいざという時の行動につながるのだと学び、自身も今後の避難訓練に積極的に取り組まなければならないと感じました。

#### 【アクション・プラン】

・学校の科学の時間を活用し、日本の耐震建築構造について探究します。

・韓国で過去に起きた災害の規模や被害の事例を調査し、問題点を探索します。また、それらをベースに非常用持ち出しリュックの準備や地域の避難経路など防災教育のためのプログラムを考えます。

・自分が通う学校の地震対応について考え、避難経路などを作成し、掲示します。

・訪日活動で学んだ防災知識と避難要領を家族と共有します。また、避難訓練シナリオを作成し、一緒に訓練を実施するなど、家族が実際の状況でも落ち着いて対応できるよう準備し、より安全な生活環境を作ります。

実施団体名：公益財団法人日韓文化交流基金